

Meridian

第23回有瀬図書館ギャラリー展
—神戸市埋蔵文化財センター出張展示—

2013. 4. 8(月)～5. 31(金)

Ancient IKAWADANI

～伊川谷の遺跡～



つきぶた
須恵器・坏 坏蓋



製塩土器 韓式系土器

Point!

朝鮮半島で製作された土器や、その影響とみられる土器は、「韓式系土器」と呼ばれています。古墳時代中期は、朝鮮半島との関係が大きく、渡来人（とらいじん）も多かったようです。播磨地域（兵庫県南西部）は、渡来人の関連する遺跡が多い地域のひとつで、韓式系土器の出土も多くみられます。

古墳時代の祭祀に使用されたと考えられる道具のひとつに、滑石製模造品があります。さまざまな種類がありますが、白水遺跡からは、勾玉（まがたま）、白玉（うすだま）、有孔円盤（ゆうこうえんばん）が数多く出土しました。



滑石（かっせき）製品
（勾玉・白玉・有孔円盤）

前ページの続き
白水遺跡

古墳時代中期



滑石（かっせき）製品
（勾玉・白玉・有孔円盤）

あとがき

弥生時代や平安時代の土器なんてあまりにも遠すぎてピンときませんでしたが、自分が生活している土地にも歴史があって、古くから人々が生活を重ねてきたのだと思うと感慨深いですね。土器自体も弥生～室町と時代が進むにつれ作りが精巧になっていて見比べてみると面白い！この機会にぜひ郷土の歴史を学んでみてくださいね。

●頭高山遺跡



●白水遺跡

●神戸学院大学



発行・編集：神戸学院大学 有瀬図書館

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬 518

TEL：078(974)1551 (代) E-mail:pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp

ホームページ：URL: <http://opac2.kobegakuin.ac.jp/ilis/>

*ただし日曜、祝日は休館

*開催時間や開催期間は変更になることがあります。
図書館HP、掲示にてご確認のうえご来館ください。

神戸学院大学有瀬キャンパスが所在する神戸市西区伊川谷町は、明石川支流の伊川地域の肥沃な平野部と緑豊かな丘陵部がひろがる自然環境に恵まれた地域です。

この豊かな伊川谷においては、古来より人々の生活が営まれていました。その痕跡（遺跡）も数多くみつかり、人々の生活の営みが、はるか縄文時代にまで遡ることが明らかになっています。

今回の展示では、数ある伊川谷の遺跡の中から、頭高山遺跡・白水遺跡の2カ所の集落遺跡を紹介いたします。この伊川谷の地で、はるか昔に生きた“いにしえびと”の息吹を体感してください。

頭高山（ずこうさん）遺跡

〈神戸市西区学園西町・伊川谷町前開〉

伊川の中流域東岸の丘陵上に位置しています。昭和50年代より数次にわたって発掘調査が行われており、弥生時代中期から後期にかけてよくみられ、山頂や丘陵上につくられる高地性集落であることが確認されています。また、平成9年の発掘調査では、このような高地性集落の他に、中世の寺院遺跡が発見されました。室町時代後期に焼失した太国寺（たいこくじ）と考えられています。現在の太国寺は、頭高山遺跡の麓に所在します。



弥生土器



壺

弥生時代
中期後半

弥生土器



甕（かめ） 水差形土器

弥生土器



高坏 甕（かめ）

Point!

弥生時代の集落（村）は、一般的に平野部につくられることが多いですが、弥生時代の中期末～後期中葉にかけて、主に西日本（特に、近畿地方＝瀬戸内海沿岸）において、山の尾根上や丘陵上にも集落がつけられます。

このような集落は、「高地性集落」あるいは「丘陵上集落」と呼ばれています。

なぜ、このような集落がつけられたかについては諸説ありますが、社会情勢が悪化したことにより、防御上（軍事上）の意味が強かったと考えられています。



大型蛤刃石斧（石の斧）
石ゾク（石の矢じり） 柱状片刃石斧



ミニチュア土器

ミニチュア土器は日常的に使用される土器の小型模倣品です。用途はよくわかりませんが、日常的に使用するものとは考えにくく、祭祀等の特殊な用途が想定されています。

土師器（はじき）



小碗 なべ 塀

平安時代

須恵器



壺

室町時代
後半



白水（しらみず）遺跡

〈神戸市西区白水1・2丁目 伊川谷町潤和〉

伊川の下流域西岸の丘陵末端から沖積地にかけて広がる弥生時代から近世にかけての複合遺跡です。これまで数次にわたって発掘調査が行われてきましたが、特に、古墳時代の集落や祭祀遺構、平安時代の集落や生産遺構（梵鐘製造遺構）がよく知られています。

土師器（はじき）



小形丸底壺 たんけいこ短頸壺

土師器（はじき）



小形鉢

古墳時代
中期

次ページへ続く